

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第七小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	・学校教育目標の実現に向けて、分掌主任、学年主任を中心に組織的・意図的な教育活動を実施していく。 ・持続可能な学校を目指し、教職員の働き方改革につながる業務改善については今後もボトムアップ型の「カエル会議」を中心に取り組んでいく。	A	・職員の団結力をすごく感じる。 ・ホームページ等で学校の取組がわかりやすく伝わっている。 ・全教職員が学校教育目標達成に向け取り組んでいる。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	・施設設備は日常的な点検と定期点検を徹底して、事故を未然に防止する。 ・生徒指導の諸問題は月1回の生徒指導部会で状況や経過等を確認し、共通理解・共通行動で適切に対応する。 ・いじめ問題については毎学期の生活アンケート調査や毎月の困り事アンケートをとおして個別面談、教育相談を行い、問題の未然防止と迅速に対応していく。	A	・訓練や防犯カメラの設置等から危機管理体制を整えていると言える。 ・ショート訓練を数多く実施している点が評価できる。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	・会計年度任用職員や通常学級支援員等の活用も含め、個に応じた指導を充実させる。 ・教科担任制を拡大し、専門的な指導、学年統一した指導を徹底することで学力向上を目指す。 ・授業におけるタブレット端末の活用の充実だけでなく、放課後や長期休業等でも児童がタブレット使用のルールを守って効果的に活用できるよう指導していく。	A	・全国学力・学習状況調査等よりしっかりと身に付いているとわかる。 ・働き方改革につながると思うが、教材研究を学年で行い、学年で同じ指導をし、学力の定着・向上を図ってほしい。 ・タブレットの活用については改善の余地がある。 ・長期休業中にタブレットを活用できる仕組みがもっとほしい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	B	・ICT機器を効果的に活用して児童の表現力を高めるための指導方法について、より研究を深め、着実に児童に力をつけていく。 ・タブレットを用いた埼玉県のコパシートの活用を学校だけでなく家庭とも連携して取り組むことで児童の学力定着を図る。	A	・学習状況調査の結果と成果・課題から実績も残していると感じる。 ・校内研修の実施が複数回あること、学習状況調査の分析等から改善に努めていることがわかる。 ・国語、算数については校内で同じ指導をしてもらいたい。例えば、算数の筆算で繰り上がりの数字を書く位置、学年により違うのはいかがなものか。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	・学習規律の確立を目指し、低学年補助教員や児童生徒支援員、スクールサポーターの支援を受けながら特に低学年段階で着実に身に付けさせていく。 ・「七小iPadの約束」をも活用するとともに、外部講師を招いての「スマホ・携帯教室」を実施し、情報モラル教育を充実させる。	A	・「七小よい子のやくそく」の徹底が素晴らしい。 ・児童の明るいあいさつが毎回あることからルールを身に付けていることがわかる。 ・学校ではできていないかもしれないが、家庭でできているのかはわからない。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	B	・毎月の全校朝会で、生徒指導部教員が生活目標を確認して指導を行う。 ・児童会を中心としたあいさつ運動について、児童の意見を反映させた形で取り組むことで、自主的な活動を促す。 ・月末に全児童が生活目標の振り返りを行うことで、改善点を見出し、指導につなげていく。	A	・iPadの約束の実施等により、指導の工夫・改善に努めていると言える。 ・情報モラル教室で外部指導者を招いている点は専門的な指導を受けられるため評価できる。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	・体育的行事や体育朝会、朝運動を工夫して、運動好きの児童を増やす。 ・業間休みや昼休みでの外遊びを積極的に奨励する。	A	・我が子たちがお世話になっていた頃から七小の校庭はいつも子供たちの元気な姿がいっぱいでいつもあたたかい気持ちになる。 ・健康・体力向上のため、しっかりと外遊びの奨励、クラスレク等集団遊びができています。 ・コロナやインフルエンザの影響が児童の活動が以前に比べ少し減っている。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	・体育部が中心となって体育授業での運動量確保や新体カテストにおける課題のある項目を伸ばすための動きや運動を計画的に取り入れる。 ・タブレット端末の活用や体育カードを工夫することで、児童が意欲的に運動に取り組めるような教材研究を行う。 ・体育主任や体力向上推進委員会を中心に授業を見合う会を設定し、体育授業の充実につなげていく。	A	・ニコニコタイムの取組から対策を講じていると言える。 ・体力カードを使った家庭での取組を行っている点がよい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	・朝霞市社会福祉協議会や朝霞市博物館による出前授業、朝霞市浄水場や消防署をはじめとした市内関係機関とも連携して体験的な学習の充実を図る。 ・年1回の学校保健委員会で健康面、運動面の課題を保護者、地域とも共有し、学校医からの助言もいただきながら課題解決に向けて連携して取り組んでいく。	A	・学校応援団や保護者・地域との連携は充実していると感じる。 ・見守り隊、PTA、おやじの会等保護者や地域と連携している様子が見える。 ・校外から見ていると連携具合が把握しづらいが、活動はされていると見受けられるため本評価とした。 ・コロナ禍以降、外部指導者の招聘が難しくなった。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	・地区委員会との連携で、校区内の安全指導や通学路点検を継続する。 ・学期初日には、教職員も通学路に立って安全指導を実施する。 ・学校応援団、おやじの会、PTAと連携して樹木剪定等環境整備に注力する。	A	・生徒の安全指導を推進している姿が登下校の見守りや一斉下校、引渡訓練の実施等よりわかる。 ・校外から見ていると連携具合が把握しづらいが、活動はされていると見受けられるため本評価とした。 ・保護者の見守りやPTAのサークルの加入者が減ってきているような気がする。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA~Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満